

# 観光と図書館

## 地域の観光に図書館はどう寄与できるか

近年の図書館（特に地域の公共図書館）には、様々な地域の課題解決や地域住民にとっての第三の居場所（サードプレイス）などの役割も期待され、地域の再生・活性化に欠かせない存在として注目されつつあります。では、観光地や観光振興に取り組む地域にとって、図書館とはどういう存在なのでしょうか？そもそも社会教育施設であり地域住民を利用対象とする公共図書館では、基本的に観光客は利用者として想定されていません。多くの観光客の来訪によって成り立っている観光地においては、地域住民と同様に、観光客も図書館の重要な利用者として意識されてもよいと私たちは考えます。図書館を地域の観光魅力づくり、観光振興に活かしている事例から、図書館と観光の連携・融合の可能性を探ります。



## 変わりつつある図書館

わが国の公共図書館は、1990年代まで、図書の貸し出しを重視して普及・発展してきました。2000年代に入ると、指定管理者制度の導入や図書館の新たな役割や可能性を示唆した『未来をつくる図書館』の刊行などを機に、地域の課題解決やビジネス支援を行う図書館などが登場してきます。さらに近年、図書館は施設・運営サービス両面でより多様化しつつあり、まちづくりの中核施設として重要な役割を果たすようになってきています。

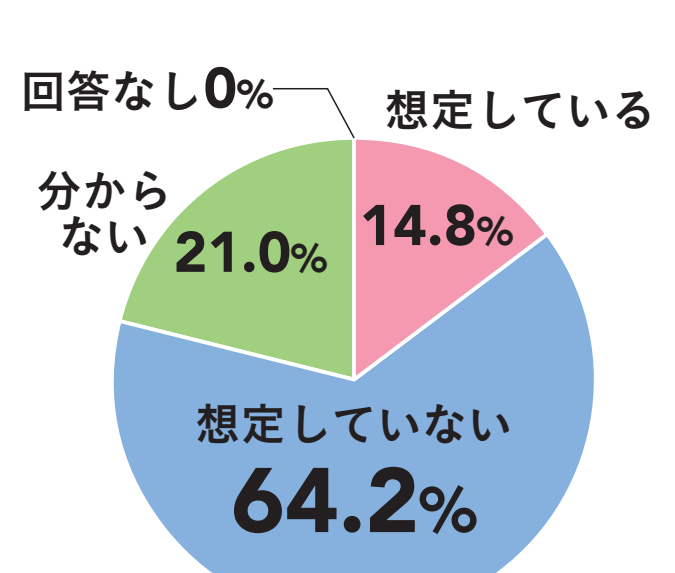
### わが国の図書館の歩み

<p><b>1870年代</b> 近代図書館の誕生</p> <p><b>1900年代</b> 1918（大正7） 和田萬吉（東京帝国大学図書館長）「旅客の為に図書館」掲載（機関誌『ツーリスト』）</p> <p><b>1950年代</b> 1950（昭和25） 図書館法公布 1954（昭和29） 南益行「観光図書館論」掲載（『図書館界』）</p>	<p><b>1960年代</b> 1963（昭和38） 『中小都市における公共図書館の運営（中小レポート）』発表（公共図書館の本質的な機能＝資料提供・館外奉仕）</p> <p><b>貸出を中心とした公共図書館の普及・発展</b></p> <p><b>1970年代</b> 1970（昭和45） 『市民の図書館』発表（市民貸出・児童サービス・全域サービスを重視） 1979（昭和54） 『図書館の自由に関する宣言』改訂</p> <p><b>1980年代</b> 国や自治体による行財政改革が進行</p>	<p><b>1987（昭和62）</b> 『公立図書館の任務と目標』発表 <b>1988（昭和63）</b> 『新しい時代に向けての公共図書館の在り方について』（近年における文科省の図書館行政の出発点）</p> <p><b>1990年代</b> 1990年代後半～インターネットの普及 <b>1999（平成11）</b> 図書館法改正</p> <p><b>課題解決型、ビジネス支援型図書館の登場</b></p> <p><b>2000年代</b> 2001（平成13） 『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準』発表（国による基準を示す）</p>	<p><b>2003（平成15）</b> 指定管理者制度の導入 / 『未来をつくる図書館』刊行 <b>2006（平成18）</b> 『これからの図書館像』発表（新たな図書館のあり方を提言 / 図書館の課題解決支援の機能を提示） <b>2008（平成20）</b> 図書館法改正</p> <p><b>2010年代</b> <b>2012（平成24）</b> 『図書館の設置及び運営上の望ましい基準』発表（図書館の課題解決支援の機能を提示） <b>2014（平成26）</b> 『つながる図書館』刊行</p>
---	--	---	--

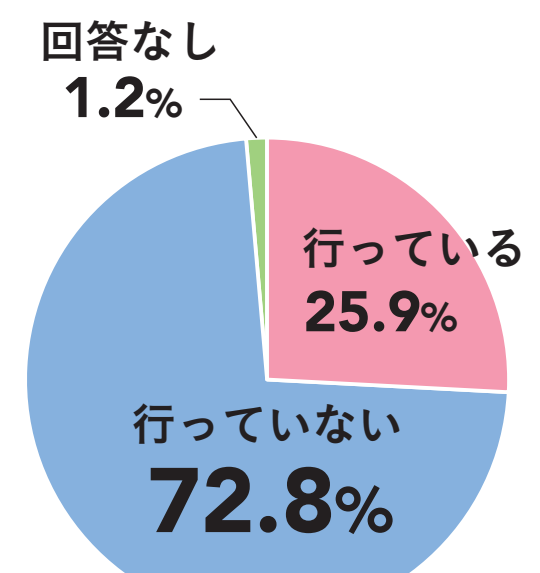
図書館の多様化  
複合化、サードプレイスとしての図書館など

## まだ観光と結びついていない図書館

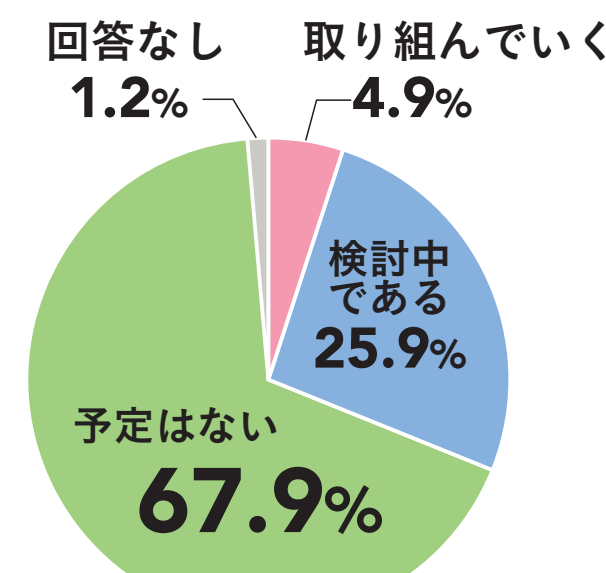
現状では、観光行政において図書館が施策のなかで意識されることは少なく、図書館が地域の観光とほとんど結びついていないのが実情です。



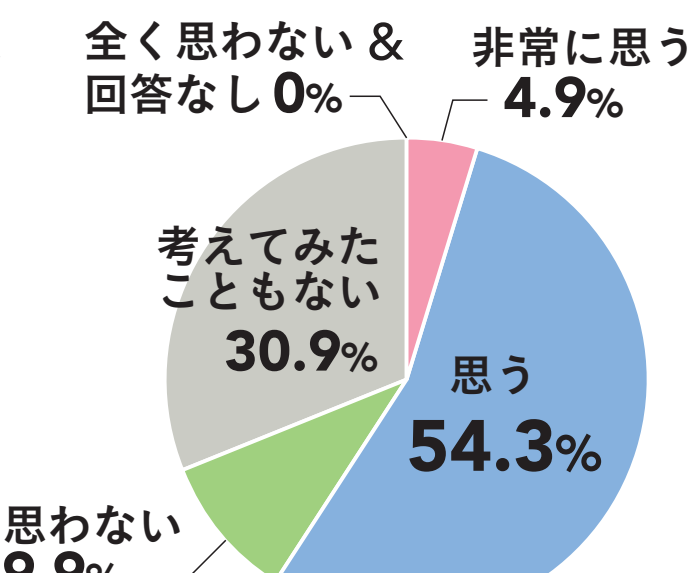
図書館における観光客の利用 (単数回答)



観光部署と図書館の連携 (単数回答)



今後の観光部署と図書館の連携 (単数回答)



図書館の観光への寄与 (単数回答)

全国の自治体の観光部署を対象に（公財）日本交通公社が2019年7月に実施した「観光と図書館に関するアンケート調査（81団体回答）」より



# 観光に図書館を活かすヒント

近年、図書館での取組が地域の観光に寄与する事例も各地にみられるようになってきました。それぞれの地域特性や課題をふまえた創意あふれる取り組みには、地域の観光に図書館が寄与していくための多くのヒントを見出すことができます。

## 1 観光対象・目的地となる

魅力の高い図書館建築や特徴的な蔵書(コレクション)、地域らしい企画展示などは、それ自体が観光対象となり来館目的ともなります。

### 図書館建築

歴史的建築物を活用したり、地域のランドマーク、シンボルともなりうる建築デザインは、図書館建築自体が地域の観光資源ともなります。

#### 大阪府立中之島図書館 大阪府

1904年に建てられ国の重要文化財に指定され、観光スポットでもある大阪府立中之島図書館。歴史的建造物と知的遺産の宝庫でもある図書館との親和性の高さを感じさせる



(コレクション)

### 蔵書や企画展示

地域の歴史や文化、産業などに関する工夫を凝らした郷土資料コーナーや企画展示は、地域文化の発信に大きな役割を果たします。

#### 甲州市立勝沼図書館 山梨県

地域の基幹産業であるぶどうとワインに関する資料3万冊を揃え、見応えのある資料展示を行っている



### 施設の複合・融合化

博物館や美術館などの文化施設等との複合化、さらに融合化は、集客力を高め、より相乗効果の高い地域文化の発信につながります。

#### 太田市美術館・図書館 群馬県

美術館、図書館、カフェ、ショップ、イベントスペース等から成る複合施設。駅前に立地し、中心市街地活性化のシンボルの存在。館内は回遊路沿いに書架や閲覧スペースなどが配置され、まるで美術館の中のような図書空間が魅力。



#### 高山市図書館 岐阜県

飛騨地域の近代学校創立の先駆けとなった歴史的施設「煥章学校」を模した高山市図書館「煥章館」は、「地域の輝かしい文化を築く拠点」を体現した施設。観光エリアに立地する図書館として、観光情報サービスも充実しており、国内外から観光客も訪れる

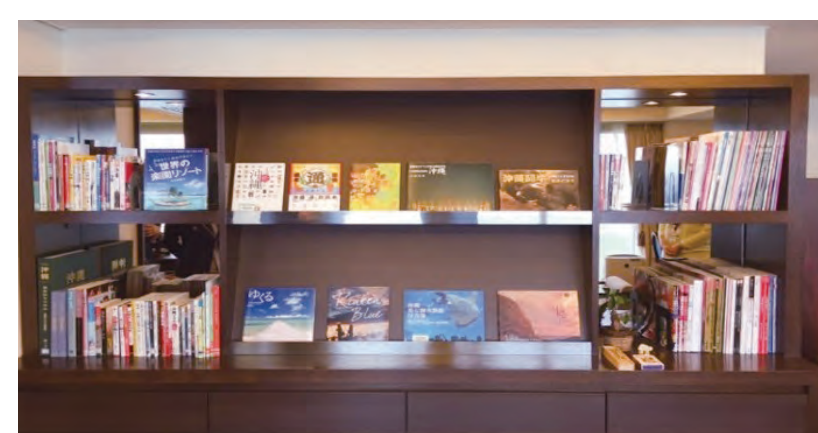


## 2 観光客の滞在・時間消費の場となる

旅行先、滞在先で、読書や郷土資料などを通じた地域の風土・文化の探求、特色あるイベントや体験プログラムへの参加といった活動の場として図書館が利用されるものです。滞在の延長化や観光活動の多様化にもつながります。

#### 恩納村文化情報センター 沖縄県

沖縄有数のリゾート地に立地。全国どこに住んでいても本を借りることができる。周辺ホテルに本を貸し出し「ミニライブラリー」を設置することで、地域での滞在の長期化にも寄与している。



ANA インターコンチネンタル 万座ビーチリゾートに設置したミニライブラリー



村外在住 → 村内在住 (在学・在勤)  
村民と村外客向けの2種ある利用者カード

#### 奈良県立図書情報館 奈良県

最寄のJR奈良駅にあるホテル日航奈良と様々に連携。図書館では20～30冊の本を選書、ホテルではブックリストを作成し全客室に配置している。図書館主催イベント参加者への特別宿泊プランの設定も。



ホテル日航奈良と図書館とのコラボプラン



# 3 地域をつなぐ (地域と連携し地域魅力を高める)

図書館だけで完結せず地域と様々な連携することは、地域の魅力の向上や観光の振興につながります。

## 甲州市立勝沼図書館 山梨県

地元ワイナリー若手集団の話聞き、試飲や音楽を楽しむ交流イベントでは、貸出カウンターがバーカウンターへと変化。全国から多くのファンが集う。地域産業を活かしたワインツーリズムの展開に大きく寄与している



## 小布施町立図書館 & 小布施町 長野県

地域住民を巻き込みながら図書館の取り組みをまちなかにも展開する「まちじゅう図書館」の先駆けとなった。観光客と住民の交流を楽しむ仕掛けとして、各地の図書館でも同様の取り組みが広がっている。



まちじゅう図書館のシンボル・フラッグ「おぶせどり」



## 伊那市立高遠町図書館 & 高遠町 長野県

図書館も協働し、町のいたるところに本棚がある町づくりを推進している。



## 千代田区立千代田図書館 東京都

区内観光にも対応するコンシェルジュサービスを提供。神保町を巡る図書館発のツアーは、区外在住者の参加が7割を占める。区内の博物館・美術館や出版社等との地域連携による展示コーナーも常設。人的サービスと地域連携展示により来館者と街をつなぐ拠点となっている



# 4 地域魅力を発信する

地域の観光情報の提供や、地域ゆかりのテーマによる図書コーナー、特色ある企画展示等を通して地域の魅力発信に寄与するものです。

## 東近江市立八日市図書館 滋賀県

市内7つの図書館の職員が関わり、行政職員や地域住民の協力のもと地域密着型の情報誌『そくら』を発行。情報誌で紹介した人やモノをテーマとした「そくら展」も開催



市民がまちの魅力を発掘・発信する「そくら」

## 伊那市立高遠町図書館 長野県

図書館所蔵の古地を活用し開発した携帯端末用アプリ「高遠ぶらり」を開発、それを使った街歩きを展開。「高遠ブックフェスティバル」は「本の街高遠」を象徴するイベントに



高遠ブックフェスティバル



携帯端末用アプリ「高遠ぶらり」



# 観光まちづくりに 図書館を活かすために

図書館は地域文化の根幹を支え、「資料」と「人」そして「地域」をつなぐ重要な役割を担っています。観光との親和性を活かし、図書館と観光がより効果的に連携・融合を図ることは、地域の観光魅力の発信やまちづくりに大きく寄与します。

1

観光客も含めて、誰もが足を運べるフラットな場所に

公共施設の中で最も利用され、誰でも気軽に足を運べる図書館へ観光客の来訪を促すことは、観光活動の多様化、時間消費の場の増加につながり、地域住民との交流を生み出します。

2

集客効果を活かし相乗効果の高い観光振興へ

特色・魅力ある建築物やコレクション、イベント・行事、付帯機能（飲食等）による図書館の集客効果を活かし、観光施設等と連携していくことで、観光面でも高い相乗効果を発揮することができます。

3

地域にしかない魅力に「気づく、見つける、創る」情報発信の拠点に

地域が観光に取り組む意義の一つは“地域を光らせる”こと。図書館は、地域の知的遺産の集積を活用しながら、情報を「地域の魅力として可視化」していく要の存在です。観光客という外の眼を加えることで、より魅力ある地域づくりにつながります。

図書館と観光の効果的な連携・融合による  
地域の観光魅力づくり・活性化

● 地域魅力の発見・発信 ● その地ならではのツーリズム、観光まちづくりの展開 ● 観光産業、地域産業の振興

## これからの課題

## 観光と図書館の連携・融合に向けて

### 観光行政や地域関係者との連携

図書館、行政、民間団体・住民等が、観光と図書館が連携・融合していくことの意義や課題、方向性を共有しながら、観光の中に図書館を活かした施策を推進していくことが必要です。

### 観光客が図書館を利用しやすい環境づくり

観光客が訪問地の図書館を利用しやすい環境づくりが不可欠です。そのための利用サービスや仕組みづくりに地域ぐるみで創意工夫していくことが望まれます。

### “地域を想う”ライブラリアンシップ

図書館員は、人と地域をつなぐコンシェルジュともいえる存在です。地域の貴重な知的遺産を次代に継承しながら、その魅力を伝える気持ちとスキルをもった人材を育てていくことが大切です。

## こちらも注目

### 半世紀以上も前に提唱されていた“観光と図書館”

旅行者、観光客のための図書館の必要性、観光と図書館の連携・融合は、有識者により古くから提唱されており、古くて新しい課題といえます。

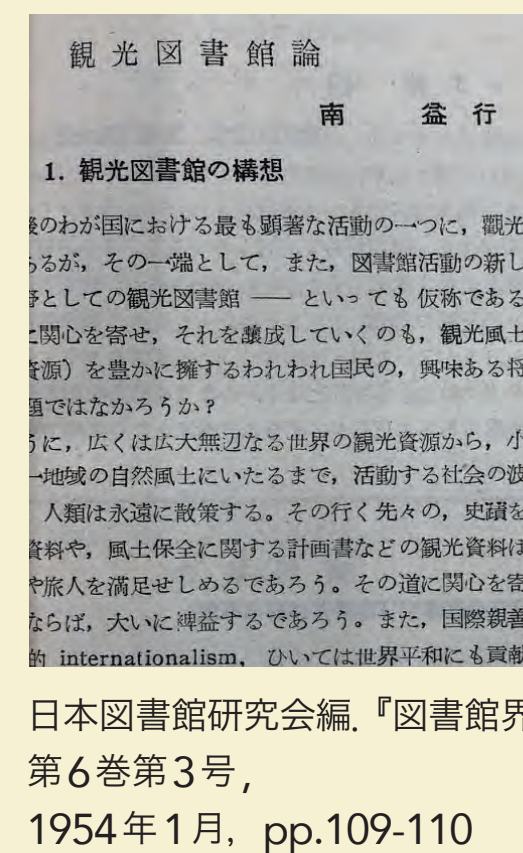
#### 和田萬吉「旅客の為に図書館」



ジャパン・ツーリスト・ビューロー、『ツーリスト』第六年第五号、1918年9月、pp.17-22  
※和田萬吉：東京帝国大学図書館長（当時）

- 遊覧地、鉄道、汽船、ホテル等で小規模な図書館を設けることは緊切。特に避暑地など旅行者が長期滞在する場所では、旅行者のみならずその地域の繁栄を図る一策となる。
- 汽車、汽船、旅館は、その土地の有志と協力して小図書館の設置に早く着手すべきである。
- 蔵書の数としてはそれほど多くなくても良いが、きちんと選書したものを置くこと。備えるべき図書としては、その地域の歴史、地理、工芸、産業などの郷土資料が第一。

#### 南益行「観光図書館論」



- 広大無辺な世界の観光資源から一地域の自然風土にいたるまで、人類は永遠に散策する。その行く先々の史蹟を物語る資料や風土保全に関する計画書などの観光資料は、必ず旅人を満足させる。
- 観光図書館が中心となり高度な観光文化活動が開かれるならば、国家・社会的、文化的に大きな価値を創造し、主対象となる観光客の受ける便益も大きい。
- 資料の種類：観光地図、観光写真、ポスター、絵葉書、郷土資（史・志）料、観光リーフレットなど